

自己評価報告書(最終報告)

報告者

臨床心理士養成コース
／久米 禎子

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

臨床心理士の養成において、その質の保証は重要な課題である。そのためには、個別の知識や技能の習得だけでなく、心理臨床的な思考ができる意識や態度の育成が必要であると考え、それを具体的にどのように行っていくかは、これまでほとんど取り上げられていない。このテーマに取り組むことで、効果的な心理臨床実習のあり方のモデルを示すことができるのではないかと考える。

2. 点検・評価

科研費申請には至らなかったが、心理臨床実習および指導を通して得られた、臨床心理士を目指す大学院生に必要と思われることがらについて、鳴門教育大学心理・教育相談室紀要にまとめた。教育上重要なテーマであるので、今後も引き続き取り組んでいきたいと考えている。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

大学院説明会やパンフレット等の内容を充実させる。また、在学生や修了生を通じて、本コースのよさを後輩に伝えてもらうよう働きかけていく。

2. 点検・評価

大学院説明会やその他の機会をとらえて本コースについて説明を行い、入学に不安のある人については相談にのった。そのことが受験につながったケースもあった。また、他大学院の情報も積極的に収集した。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

教育活動においては、授業内容の充実とともに、個別指導(論文指導, 臨床実践の指導)に力を入れていきたい。また、学生支援委員として、また学部4年生および大学院1年生の担任として、学生の進路や悩み事の相談に応じ、教育・生活両面でサポートしていきたい。

2. 点検・評価

授業においては講義だけでなく、レポートチェックとフィードバックも行い、それぞれの学生が自分の課題が把握でき、能力が向上できるよう努めた。論文指導や臨床実践の指導は個々の学生の興味関心および能力に合わせ、それぞれの学生が自分なりに成長できるよう時間をかけて指導を行った。その結果が修士論文や臨床実践に表れていたと思われる。生活面においても学部4年生および大学院1年生の担任としてサポートを行った。

II-2. 研究

1. 目標・計画

昨年度、ここ数年間の臨床実践指導の経験から、「親子並行面接におけるシェアリング」について論文にまとめた。今年度は、それに続き、実践に役立つ別のテーマで論文をまとめたい。また、箱庭療法について実習や調査を行う中で、「ズレ」の持つ意味に注目するようになった。そのテーマを形にしていきたい。

2. 点検・評価

研究紀要に投稿した、プレイセラピーにおける「砂」の持つ意味は、箱庭療法の研究にもつながるものであり、内容がより深まった。箱庭療法についての論文は現在書き進めている途中である。また、「聴くことの能動性」について、大学の相談室紀要に投稿した。これは、前年度の「親子並行面接におけるシェアリング」に続き、大学院生にとって必要と思われる、心理臨床の基本的なテーマについて論考したものである。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

学生支援委員として、学生の生活面をサポートし、大学の運営に寄与したい。

2. 点検・評価

学生支援委員会の委員として学生生活に関する面で関わった。またコースや部の一員として役割を果たした。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

スクールカウンセリング活動を通して、附属幼稚園・小学校と連携を行う。また、ライフサポーター、スクールプロフェッサー等の活動を通じ、徳島県教育委員会と連携し、児童・生徒の心理面のサポートを行う。

2. 点検・評価

附属幼稚園および小学校においてスクールカウンセリング活動を行った。また、徳島県教育委員会の事業であるスクールプロフェッサー、ハートケアマネージャー、ライフサポーター指導員として社会連携を行った。さらに、保育所において子どもとの関わりを行い、発達を支援した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)